

文化

— Culture —

人と人が 共創する文化

多くの美術館や音楽ホールがある佐倉市。
市民が芸術を身近に感じられるとともに、
芸術を通して人と人がつながり、
生き生きとした文化を生み出しています。

- 1 佐倉市民音楽ホール内のストリート・オルガン。国内最大級の大きさを誇ります。小型のものは演奏体験もできます。
- 2 佐倉草ぶえの丘で開催される「くさのねフェス」にゲスト出演する荻野目洋子さん(佐倉親善大使)。
- 3 旧堀田邸「観月の夕べ」。音楽を楽しみながら風流なひと時を楽しめます。写真は佐倉市出身のシンガーソングライター南壽あさ子さん。
- 4 塚本美術館。国内有数の収蔵数を誇る、日本刀専門の美術館です。
- 5 DIC川村記念美術館。20世紀美術を中心とする多彩な作品を鑑賞できます。庭園の緑と水辺も魅力。

DATA

市民音楽ホール稼働率
[2018年度(平成30)]

80.0%

資料：佐倉市「佐倉市統計書」

※ 稼働率＝休館日等を除いた利用可能な日のうち、
実際に利用があった日の割合





3



4



5

開花前線 Column

佐倉市立美術館

新町通りに位置する佐倉市立美術館。佐倉・房総ゆかりの作家作品を収集し、これらの作品やその延長上にある日本の近代美術を紹介する展覧会を開催しています。また、現代美術の展示や、夏休みの子ども向け企画など、美術の多様な可能性を取り上げ、幅広い対象にむけて発信しています。様々な作品と出会えるとともに、人々が関わり、芸術の楽しみ方の幅を広げるきっかけづくりの場となっています。



Interview

SAKURA VOICE



きりかね
截金師・日本画家
並木秀俊さん
 Hidetoshi NAMIKI

東京藝術大学で日本画を専攻。同大学大学院在学中に截金と出会い、創作活動を開始。現在は截金の歴史研究にも尽力している。

截金と日本画の融合が織りなす美しく繊細な作品世界

子どもの頃から絵を描くことが好きで、市内の幼稚園のおえかき教室に通っていました。学部では日本画を専攻していましたが、大学院に進んで文化財保存学を学ぶ中で、截金と出会いました。截金は、極薄の金箔を線状や角形に切り貼りして文様を施す伝統技法です。私の作品は鳥や草花を描いたものが多いのですが、髪の毛のように細い金箔を使うことで、羽毛や植物の繊細な造形美や空気感・立体感を表現できると感じています。また、截金の起源を探る歴史研究もしています。この技法が日本にもたらされたのは飛鳥時代で、平安・鎌倉時代の仏像・仏画には盛んに取り入れられていました。ルーツをたどると、ヨーロッパにまでさかのぼります。歴史の深いまち佐倉で育ったためか、こうした経緯を自然と探求したくなりますね。最近は海外でも研究発表させて

いただいています。「KIRIKANE」の深い世界を、創作・研究の双方で発信していきたいです。



育まれる文化

一人から人へ、世代を超えて

アートや音楽を通じて、出会いや交流が生まれる。
人と人が関わり合う中で、多様な文化が育まれています。

Interview

「音楽にふれられる場所づくりをしたい」

くさのねフェス実行委員長 白幡延幸さん

くさのねフェスは様々な思いが交差する場です。この舞台を目標に活動してきたバンド。お祭りとして楽しみにしている人。それぞれにポジティブな思いを持っていただき、感謝しています。生の音楽にふれ、音楽活動に参加できる場を開くことには大きな意味があります。今後もより素敵なイベントにしていきたいです！



くさのねフェス

Kusanone Festival

草ぶえの丘で行われる大型野外音楽イベント。毎夏開催され、市内外のアーティストがライブを繰り広げる中、熱狂的な盛り上がりを見せています。



佐倉ブラスフェスティバル

Sakura Brass Festival

市民音楽ホールで開催。市内学校の吹奏楽部や市民プラスバンドが集うイベントです。世代間交流の機会にもなっています。



佐倉シティープラス
三薺幸司さん

学生の皆さんの
上達する姿から
感動をもらっています！

社会人の方々と
共演しいろいろ
学べました！



佐倉東中学校
吹奏楽部部长
永松すみれさん



人と人がつむぐ、 みずみずしい文化・芸術

市内には、市立美術館をはじめ、様々な特徴を持つ美術館や音楽ホールがあります。身近な地域で古今東西の芸術作品に親しむことができるとともに、作品鑑賞会やコンサートをはじめとする文化活動に気軽に参加でき、暮らしの中に豊かな芸術が根付いています。

さらに、「くさのねフェス」に代表されるイベント等を企画・運営する中で、市民が担い手となって、文化が育まれ、アートシーンが形成されています。人と人がアートや音楽を通して出会い、つながり、刺激を与え合う。そのような中で、多様な文化が息づき、魅力を増しています。

Fostered culture Passed on from person to person over generations

The city has numerous art museums and music halls, and people can become familiar with art works from all ages and places in their own community. It is easy to participate in cultural activities including art viewing events and concerts.

Furthermore, residents take the lead in cultural events typified by the Kusanone Festival. As people encounter and inspire one another through arts and music, a variety of culture comes to life, making the city more attractive.



ミテ・ハナソウ

Mite Hanaso
(interactive art appreciation project)

市立美術館で行われている、対話しながら美術鑑賞をするプロジェクトです。美術の知識がなくても楽しむことができ、子どもたちにも人気です。

撮影:加藤健



みんなで見ると
たくさんの
発見があります。

ミテ*ハナさん
並木桂さん

Interview

「自分たちで作る、 自分たちのイベント」

ロックバンド Halo at 四畳半の皆さん

くさのねフェスは、地元の方々に自分たちの成長を披露できる大切なステージ。地域の人と一緒に作る「自分たちのイベント」という実感があります。家族連れなど、普段のライブではあまり出会えない観客のかたも多く、嬉しです。佐倉は僕たちの出発点となった場所で、青春時代の全てがここに 있습니다。また、ここで生まれた先輩バンド、BUMP OF CHICKENは憧れの存在。背中を追うように活動を続けてきました。これからも、「佐倉出身バンド」として活躍の幅を広げていきたいです！



2012年、佐倉市でバンド結成。2018年、「swanflight」でメジャーデビュー。左から齋木孝平さん(Gt&Cho)、渡井翔汰さん(Vo&Gt)、白井将人さん(Ba)、片山僚さん(Dr&Cho)。

多くの美術館を有し、芸術を身近に感じられる佐倉市。まちに縁を持つ芸術家の方々が数多く存在し、豊かな自然や歴史・伝統、そして人とのつながりを生かしながら、新たな挑戦を続けています。

興隆す

— 伝統を礎に、

Artist

芝山象嵌
松本香
さん

Shibayama inlay
Kaori MATSUMOTO



Artist

手描き友禅
クワバラ
マキコ
さん

Hand-drawn yuzen
Makiko KUWABARA

着物の染色方法は多様ですが、手描き友禅は、生地に描いた柄のアウトラインに糊を置き、筆で彩色をしていく手法です。私は草木や花を描くことが多いのですが、自然豊かな佐倉で過ごす中、田んぼの色が季節ごとに移り変わる様子、近所に生えている植物の色彩・模様などに日常的にふれられるため、いざ作品の下絵を描いたり色を挿したりする時にも、自然の姿が鮮明に思い描かれます。作品はほぼ「一点もの」なので、制作時は、お客様のリクエストをお聞きし、やりとりをしながら作りあげていきます。着ていたかたの顔が見え、共同作業のような感覚があり、とても楽しいです。子どもの頃から和装に親しめて、着物が身近にある暮らしを広めていきたいです。



芝山象嵌とは、貝、艶甲(べっこう)、象牙などをレリーフ状に彫刻し、漆面や木面などに象嵌する華やかな装飾技法です。江戸時代の安永年間に、芝山専蔵により考案されました。私は子どもの頃から佐倉に住んでいますが、当時から歴史や古美術が大好きで、佐倉出身の工芸家、香取秀真の作品の美しさに心を奪われ、幾度となく市立美術館で鑑賞していました。そうした体験が、自分の創作活動にも大きく影響を与えていると思います。佐倉には古くからお住まいのかたが多く、「実はうちにも、香取秀真の掛け軸があるよ!」と見せてくださるかたも。そんな素敵なお縁を大切にしながら、創作活動を続けていきたいです。

Artist

組子細工
嶋野浩司
さん

Kumiko latticework
Koji SHIMANO



高校卒業後、栃木県鹿沼市の建具屋で見習いをしていた時、組子細工に出会いました。「角麻」という麻の葉文様の組子に魅了され「自分がこれを作りたい!」と思うように。その後組子職人に弟子入りして修行を積みました。現在は住宅やお店等の建具・組子を手掛けています。パーツを一つひとつ作る根気のいる作業ですが、思い描いた模様や図柄が徐々にできてくると楽しいですね。お客様が喜んでくれたり、人づてに評判が広まり「うちにも作ってほしい!」なんて言っただけのもとても嬉しいです。佐倉は文化が豊かなので、組子の美しさにひかれて住まいに取り入れるかたも多いです。これからも、職人がつむいできた技を守りながら独自の組子を生み出していきたいです。

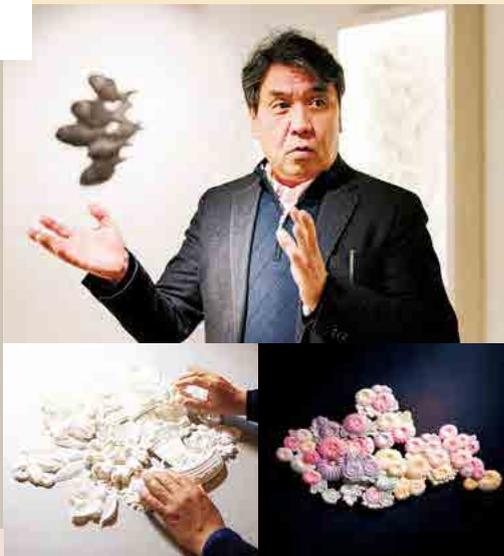
る 芸 術

新たな挑戦を—

Artist

陶芸・彫刻 和田的 さん

Pottery / sculpture
Akira WADA



陶芸との出会いは、小学生の頃、佐倉草ぶえの丘で陶芸体験をしたことです。また、市内で活動されている陶芸家、上瀧勝治先生との出会いも大きく影響しました。先生が作った大きな白磁壺を見て、その美しさに心ひかれ「自分もこういうものを作りたい」と思うように。その後、陶芸の基礎を学び先生に弟子入りしました。独立した現在は、彫刻刀で形を彫り出していく独自の手法で創作しています。彫刻によって生まれる陰影を特徴としており、一般的な陶芸作品とは手法が大きく異なりますが、作りたいものを追求した結果こうした作風になりました。佐倉は美術館で様々な作品にふれられ、東京から近いので展示の際も動きやすく、活動拠点としてメリットを感じています。

Artist

和菓紙 永田哲也 さん

WA-GA-SHI
Tetsuya NAGATA

「和菓紙」作品は、日本の伝統的な和菓子の木型を和紙で型取り、それらを組み合わせて作ります。木型には、作成された当時の文化や地域ごとの特色、時代性などが反映されています。お祝い事の象徴である鯛の木型一つとっても、膨大な種類があるんですよ。その一つひとつが、作り手や使い手の記憶、お祝いの席に込められた思いを反映しています。そうした記憶を写し取り、今ここに新たに出現する「和菓紙」。それは過去と現在そして美術作品として未来へと続きます。「時間」と「空間」をテーマに、試行錯誤と挑戦を繰り返しながら、こうした創作活動を続けてきました。佐倉に暮らして30年ほどになりますが、歴史や芸術にふれる機会が身近にある佐倉ならではの可能性を生かし、生活の中にアートが根付き、芸術が芽生え、育まれるまちであってほしいと願っています。



修復作品：
マックス・エルンスト《森と太陽》
富山県美術館蔵

Specialist

絵画保存修復 岩井 希久子 さん

Art Conservation
Kikuko IWAI

絵画保存修復家は「絵のお医者さん」です。絵画の状態をチェックし、クリーニング、剥落止め、補彩などの「治療」をします。重要なのは、作品の修復処置を行うだけでなく、適切に保存すること。いかに酸化を抑え、現状維持できるかを考える過程で、「脱酸素密閉」や「IWAI保存パネル」等の特許取得技術を確立してきました。普及活動や後継者育成にも力を入れています。娘（貴愛さん、写真右）が仕事を継いでくれ、ほっとしていますが、日本に修復技術や理念を根づかせたいですね。人類の宝である絵画を未来につなぐため、できることを続けていきたいです。